

(株)東芝 マイクロエレクトロニクスセンター サイトレポート情報

所在地 : 神奈川県川崎市小向東芝町1番地
敷地面積 : 34,803m²、延床面積:90,389m²、緑化率13.5%(規制対象外)
設立 : 1958年4月、正規従業員:550人(2009年3月末現在)



所在地(半枝C)分室 : 神奈川県川崎市堀川町580番1号
延床面積 : 36,266m²、(テナントオフィスビル入居)
設立 : 1987年4月、正規従業員:1,431人(2009年3月末現在)



(半枝C)分室

大船分室

所在地(大船分室) : 神奈川県横浜市栄区笠間2丁目5番1号
延床面積 : 29,936m²、(テナントオフィスビル入居)
設立 : 1994年10月、正規従業員:980人(2009年3月末現在)

主要製品 : ディスクリット、システムLSI、メモリ半導体の技術開発

ISO14001認証取得 : 1996年2月、最新更新(統合)年月 : 2008年8月
ISO14001認証番号 : EC98J2014

サイトの紹介

(株)東芝 マイクロエレクトロニクスセンターは、研究開発都市川崎の東部に位置し、多摩川に近接した周辺を住宅地に囲まれた小向地区と、川崎駅に近接した半導体システム技術センター分室、及び横浜市栄区の大船分室から成る都市部に立地した事業所で、半導体の設計・開発の拠点として、環境配慮型製品やプロセス技術等の研究開発を行っています。



所長 大戸 秀起

2008年度の環境の主な取組み

☆ISO14001環境マネジメントシステム

・ISO14001 セミコンダクター社グループ 統合認証取得 ⇒ マイクロエレクトロニクスセンターは、横浜事業所内のアドバンスマイクロエレクトロニクスセンターを適用範囲として6月に受審し、継続認証合格。Step-2完遂

☆地球温暖化防止の推進 : 施策発掘と実行によるCO₂排出量削減

・CO₂排出削減量(マイクロエレクトロニクスセンター) ⇒ 目標:1,994t-CO₂以上/年 実績:3,158t-CO₂ 達成率158%
・CO₂排出量(アドバンスマイクロエレクトロニクスセンター) ⇒ 目標:29,990t-CO₂以下/年 実績:29,917t-CO₂ 達成率100%

☆資源の有効利用推進 : 廃棄物(有価物含む総排出量)削減

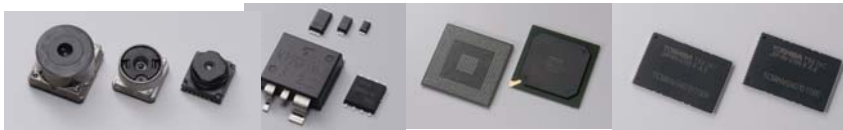
・廃棄物総量(マイクロエレクトロニクスセンター) ⇒ 目標:485t以下/年 実績:421.3t/年 達成率115%
・廃棄物総量(アドバンスマイクロエレクトロニクスセンター) ⇒ 目標:502t以下/年 実績:460.2t/年 達成率109%
・ゼロエミッション(最終処分率)⇒マイクロエレクトロニクスセンター:0.5% アドバンスマイクロエレクトロニクスセンター:0.2%

☆化学物質排出量の削減: 東芝第4次ボランタリープランの指定有害化学物質排出量削減

・大気への排出量(マイクロエレクトロニクスセンター) ⇒ 目標:541kg以下/年 実績:493.9kg/年 達成率110%
・大気、水域への排出量(アドバンスマイクロエレクトロニクスセンター) ⇒ 目標:2,000kg以下/年 実績:1,523.8kg/年 達成率131%

製品、環境技術開発紹介

「ディスクリット」「ロジック」「メモリ」の3分野を中心とした半導体の設計、製品開発



環境コミュニケーションの紹介

☆環境報告書の発行 : 2004年度より毎年発行し、「環境報告書2008」8月発行で累計5版発行

☆地域との交流

- ・町内会及び行政を対象に環境活動及び事業活動の説明会を10/7に開催(東芝3事業場共催)
- ・清掃活動:多摩川クリーンキャンペーン、川崎駅周辺クリーンキャンペーン、大船分室周辺クリーンキャンペーン、川崎市統一美化運動に呼応した事業場周辺一斉清掃等を実施。
- ・MC祭りの場を利用し、「ストップ温暖化」をテーマに環境に配慮した省エネ活動アンケートを実施。
- ・各種行事参画 : 環境月間、ライトダウンキャンペーン、チームマイナス6%、エコファミリー等

環境方針

(株)東芝 セミコンダクター社
マイクロエレクトロニクスセンター 環境方針

－ 理念 －

マイクロエレクトロニクスセンターは、東芝グループの理念である「"かけがえのない地球環境"を、健全な状態で次世代に引き継いでいくことは、現存する人間の基本的責務」との認識に立って、東芝グループ環境ビジョンのもと、豊かな価値の創造と地球との共生を図ることで持続可能な社会へ貢献します。

－ 方針 －

マイクロエレクトロニクスセンターは、東芝 セミコンダクター社グループの環境方針に基づき、環境への取組みを経営の最重要課題の一つと位置づけ、事業活動における環境負荷の低減活動を推進するとともに、日々の暮らしや様々な産業分野に欠かすことのできない半導体の設計・開発の拠点として、環境配慮型製品やプロセス技術等の研究開発を推進することで社会に貢献することを目指します。

当事業場は、研究開発都市川崎の東部に位置し、多摩川に近接した周辺を住宅地に囲まれた小向地区と、川崎駅に近接した半導体システム技術センター分室、及び横浜市栄区の大船分室を含め、都市に立地する事業場として周辺地域社会との協調連帯を図ります。

1. 環境影響評価の結果を考慮して、環境目的・目標、及び実施計画を定め、環境マネジメントシステムの継続的な改善及び汚染防止に全員で取り組みます。
2. 環境に関する法令、同意した協定、業界指針及び自主基準など当事業場の環境側面に適用可能な法的及びその他の要求事項を順守します。
3. 事業活動に伴う環境負荷の低減活動、及び有益な環境側面の積極展開を推進します。
 - (1) 動力、空調、設計・開発・評価用設備を中心とし、執務室・実験室等のエネルギー消費量削減施策の実施により地球温暖化防止を推進します。
 - (2) 3R活動による廃棄物総発生量の削減、及び水資源の受入量削減により資源の有効利用を推進します。
 - (3) 使用する化学物質の管理並びに特定した化学物質の環境排出量削減施策の実施により、環境リスクの低減を実現します。
 - (4) 有益な環境側面の積極展開を推進し、社会の環境負荷低減に取組みます。
4. 良き企業市民として、従業員の環境意識向上及び地域社会との協調連帯を図ります。

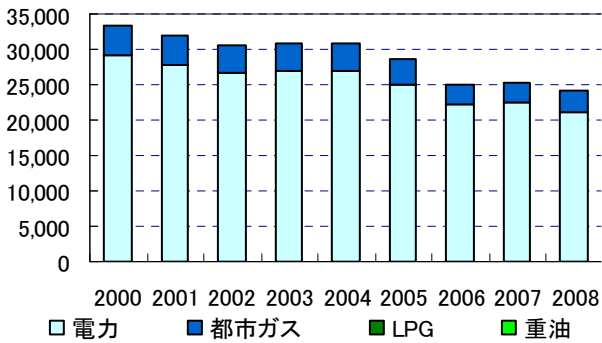
この環境方針は、社内外に開示するとともに本組織で働く全ての人々に周知し、方針に沿った事業活動を推進します。

2009年 4月 1日
株式会社東芝 セミコンダクター社
マイクロエレクトロニクスセンター

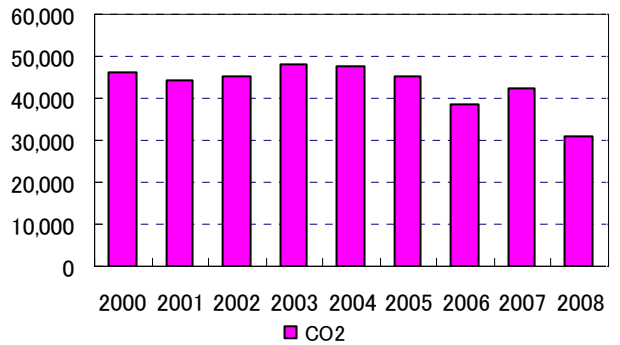
所長 大戸季起

環境負荷データ

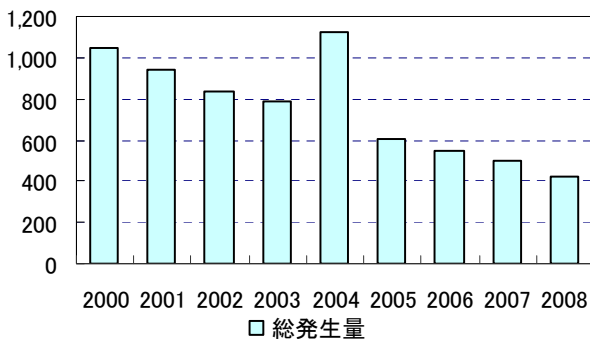
エネルギー使用量 (単位:kL)



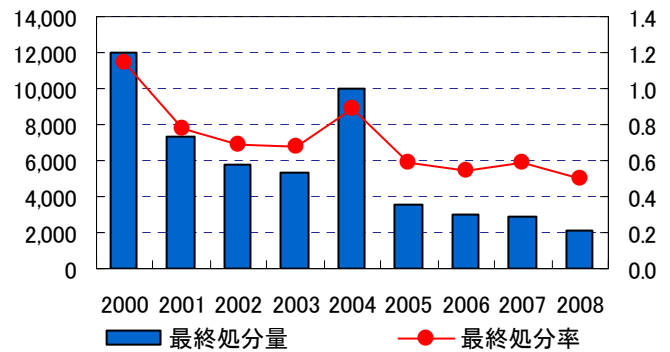
CO₂排出量 (単位:トン-CO₂)



廃棄物総発生量 (単位:トン)

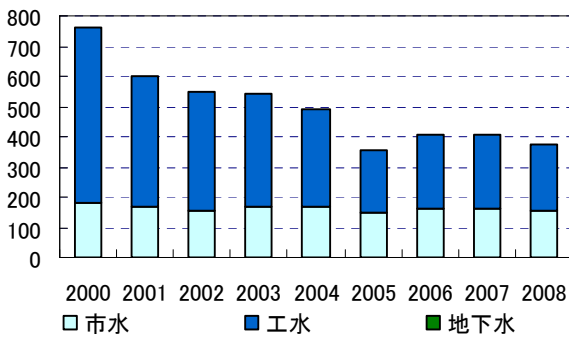


廃棄物最終処分量と最終処分率 (単位:kg, %)

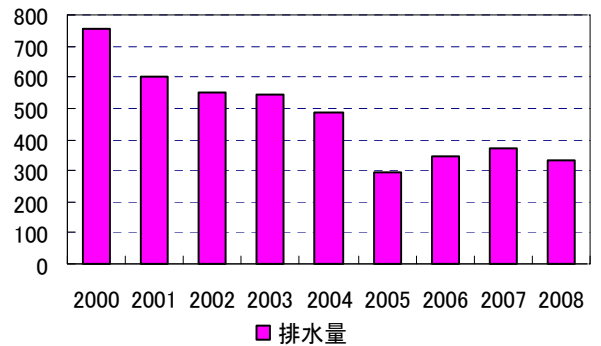


主な廃棄物名:紙、プラスチック、金属、汚泥等

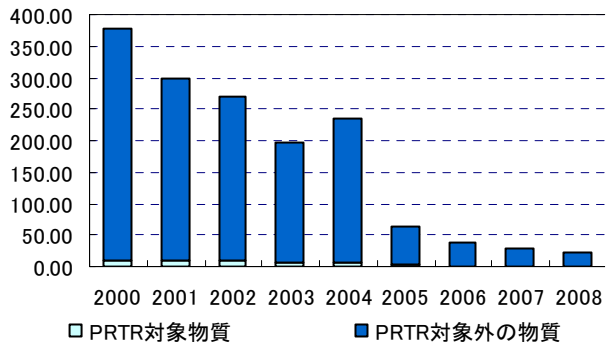
水の使用量 (単位:千m³)



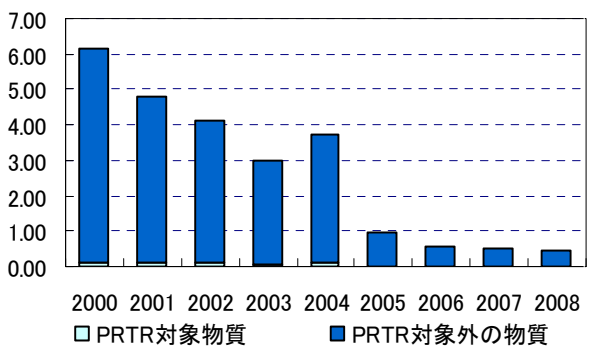
排水量 (単位:千m³)



第4次ボランタリープラン削減対象の取扱量の推移 (トン)



第4次ボランタリープラン削減対象の排出量の推移 (トン)



主な化学物質:硫酸、塩酸、酢酸エチル、弗酸等

遵法管理状況

大気測定結果(水管ボイラー(都市ガス使用) 1台)小向地区

実測値は最大値を標記

	法規制値	自主管理値	実測値	測定頻度
NOx(mg/1000KJ/日)	63	51	28	年6回
SOx(mg/1000KJ)	140	14.33	<1	年6回
NOx排出総量(kg/年)	6225	2500	1089	計算値
PM排出総量(kg/年)	966	240	122	計算値

排水測定結果(主な測定結果)(排水処理施設等、川崎市公共下水道)小向地区

実測値は最大値を標記

	法規制値	自主管理値	実測値	測定頻度
水素イオン濃度(pH)	5~9	6.2~8.5	6.7~8.0	2回/月(常時)
BOD (mg/ℓ)	600	100	28	2回/月
COD (mg/ℓ)	対象外	—	—	—
浮遊物質質量(SS)(mg/ℓ)	600	40	13	1回/3月
窒素(mg/ℓ)	240	50	7	2回/月
フッ素(mg/ℓ)	15	13	4	2回/月

騒音・振動測定結果(敷地境界線3箇所)小向地区

実測値は最大値を標記

	測定場所:時間	規制値	自主管理値	実測値	測定頻度
騒音(dB)	敷地境界:昼	65	60	52/57/53	1回/6月
	敷地境界:夜	55	53	47/51/51	1回/6月
振動(dB)	敷地境界:昼	70	45	30/<30/30	1回/6月
	敷地境界:夜	60	40	<30/<30/<30	1回/6月

その他測定結果 小向地区

	法規制値	自主管理値	実測値	測定頻度
水素イオン濃度(pH)	対象外	—	—	—
BOD (mg/ℓ)	対象外	—	—	—
浮遊物質質量(SS)(mg/ℓ)	対象外	—	—	—

環境事故・指導指摘・苦情の有無

	状況
環境事故発生の有無	なし
事業所周辺や地域での環境問題発生の有無	なし
行政からの指導・指摘の有無	なし
近隣住民からの苦情の有無	なし